

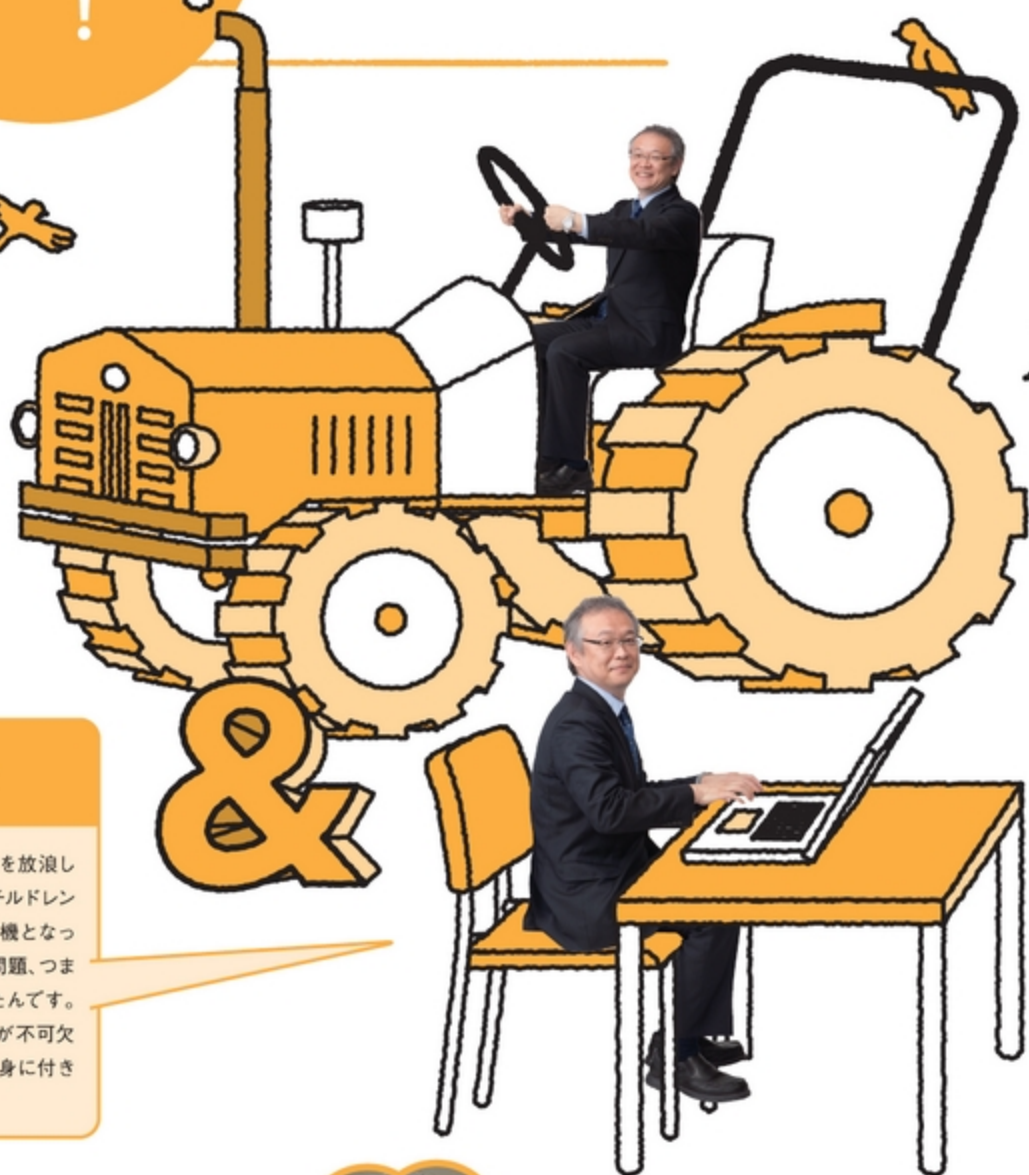
穀物生産を増やし、
インドの飢餓を救った
緑の革命。

インドにどんなイメージを持っていますか？最近は一丁のイメージも強いようですが、1960年代までは食料不足になることもしばしばでした。それを変えたのが、「緑の革命」と呼ばれる農業革命です。収穫量の多い品種や灌漑施設などを導入し、機械化を進めたことで、穀物の大量生産に成功。それまでインドの食糧難は人口が多いだけに、世界に影響を及ぼしていましたが、その危機は回避されるようになったのです。ただ、食料の生産量は増えましたが、今なお貧富の差は広がっています。貧困を解決したいとインド農業を研究してきましたが、インドは貧困問題も巨大で、私の研究もまだまだ終わりそうにありません。

データだけでなく
現地で得た情報も
組み合わせる。

研究では、緻密な統計分析と徹底した現地調査の両面を大切にしています。人間の生活全部が関わってくるのが経済学。統計から分かることは限定されており、数字になりにくい部分も考える必要があるからです。例えば、米の収穫量を上げるには、どんな道具を使ったらいいのか、天候はどうか、農家の熟練の度合いはどうかなど、現地調査で得た情報を統計と組み合わせれば、見えてくる世界が違ってきます。今後、研究してみたいと考えているのが、日本の農業です。日本の農業は特殊とされてきましたが、これまでインドを眺めてきた目で見てみれば、新たな一面が発見できるのではないかと感じています。

問題も魅力もケタハズレ！
インドにはまると
抜けられないかも。



経済学部
産業社会学科

杉本 大三 先生

大学時代、バックパッカーとして世界を放浪した先生。ネパールで多くのストリートチルドレンを見たことが、研究者の道に進む契機となった。「その時、貧困をなくすには村の問題、つまり農業問題の解決が必要だと感じたんです。インドでの調査には粘り強い交渉力が不可欠で、今や何事にも動じない精神力が身に付きました」。



私の マストアイテム

インドでの調査ノートと 統計資料のコピー

大学院生の頃、現地の農家にインタビューしたときのノートと、現地で入手した統計資料です。資料は役所の図書館で雑然と置かれていた本の中から見つけたお宝で、露店のコピー屋さんにコピーしてもらったもの。おかげで博士論文が書けました。

